

## 大原生涯学習センター i - y o u t h における L F A との連携事業の活動経過について

令和3年10月より大原生涯学習センターで実施している、NPO法人（L F A）と連携した i - y o u t h の機能拡充についての取り組み状況について経過を報告する。

## 1 事業概要

NPO法人のノウハウを活用し、i - y o u t h の「居場所」機能に、キャリア教育や社会的自立に必要な学びの機会を拡充する。その過程で、支援が必要な子ども（大変な困難を抱えている）を発見した際は、必要に応じて関係機関と連携できる体制を構築する。

活動内容	実施日時	対象	定員	スタッフ（L F A）
①居場所の提供（リビング） ②学びの機会の提供（ラボ） ③個別相談	水：15～19時 金：16～19時	13～18歳の子ども	15～20名/日	・責任者1名 ・インターン1名 ・ボランティア3名

## 【各活動を実施するにあたり L F A が意識的に行っていること】

- ・ L F A スタッフから場に馴染み、子どもとの信頼関係を構築していく。
- ・ 1人で来ている子がいた場合、他の子どもとの関係性を築けるよう働きかける。
- ・ 虐待が疑われる可能性がある場合（相談があった）は関係機関に通告する。

## 2 実施状況

## （1）リビング

月	実施回数	参加者数	スタッフ数	虐待通告実績
10月	8回	184名	職員1～3名、学生ボランティア1～4名	3回
11月	7回	211名	職員1～3名、学生ボランティア1～4名	1回
12月	7回	461名	職員1～3名、学生ボランティア1～4名	2回

※参加者数は延べ数

## 【具体的な活動の様子】

L F A のスタッフは、子ども達が来ている目的に合わせて様々な関わり方をしている。主には、おしゃべりの相手、卓球やカードゲーム等の遊び相手、勉強の相談相手となっており、実施から3ヵ月が経過し、L F A の活動日に i - y o u t h に来る子どもも出てきているようである。

## (2) ラボ

月	実施回数	内容	参加者数
10月	2回	「i-youth をもっと面白がろう！」 ・やりたいことを付箋に書き、ホワイトボードに貼っていく	約 30 名
11月	2回	「みんなでアートをつくろう！」 ・大きなキャンバスに子どもたちが描きたいものを描く	約 30 名
12月	1回	「染め物ワークショップ」 ・Tシャツやハンカチに藍染めをする	約 20 名

### 【具体的な活動の様子】

社会的な自立を目的とした学習活動として、10月に子どもから、i-youth で実施したい内容のアイデア出しを行い、11月のイベントには、アイデアを出した子どもが、大学生スタッフと一緒に企画側にまわった。12月のイベントでは、まなぼーと大原の利用団体である「藍染同好会」に協力を依頼し、体験事業を実施した。

## (3) その他の取り組み

### 【周知活動】

- ・周辺の中学校や高等学校、区内で活動している NPO 法人等にチラシの配布を依頼した。
- ・LINE 公式アカウントを活用し、登録した子どもにイベント実施の告知を行った。

### 【いたばし弁強会（子ども食堂）】

- ・L F A の独自事業として、学習支援と食品配布を中心とした事業を展開した。  
3 か月間で計 7 回実施し、延べ 49 名が参加した。

## 3 成果と課題（連携事業開始 3 か月経過段階）

### 【成果】

- ・当初の想定より早く、子どもと L F A スタッフとの関係性が構築でき、事業の円滑な実施や、子どもの抱える困難の早期発見ができた。
- ・事業を通じて、子どもの自己肯定感の向上や、多世代交流を行うことができた。
- ・現場の社会教育指導員や、子ども家庭支援センターとの連携体制が整理できた。

### 【課題】

- ・子どもが抱えている困難が、L F A スタッフで対応できる範疇を超えるケースがあった。
- ・今後、希死念慮や自傷行為など、利用者の生命に高い危険性がある事象が発生した際の、関係機関との連携方法を事前に検討する必要がある。

### 【総括】

連携事業の目的である、「若者に行う社会教育」や「配慮が必要な利用者への適切な支援」については効果的に作用していると感じている。しかし、配慮が必要な利用者への支援については、社会教育施設としてどこまで対応するのかという点も含めて、検討を継続していく必要があると認識している。